



# 高祖ご降誕 800年慶讃ご奉公 世にともしびを人にやすらぎを教化・法灯相続推進

# 清流ニユーズ

宗内のみなさん 明けましておめでとうございます。  
いいます。高祖ご降誕八百年ご正当の年をとも  
にお迎えできることを慶ばしく思います。

新年にあたり、本山御宝前においてご一同  
のご奉公成就と世界の平和、人々の安穏、そ  
して新型コロナウイルス感染症の拡大防止、  
早期終息と、自然災害により被災した各地  
の速やかな復興をご祈願させていただきまし

いえます。高祖ご降誕八百年ご正当の年をとも  
にお迎えできたことを慶ばしく思います。

昨年も、數十年に一度といわれるような自然災害が多発し、最早常態化しつつあることが懸念されておりますが、それに加えて新型コロナウイルスの変異株が猛威を振るい災害級の感染症となつております。

私も昨年は、各地への巡教を延期するなど、ご弘通面にもかなりの影響がでております。しかし一方で、一昨年から延期された第七回青少年の一座が、オンライン奉修という新しい試みの中で開催され、多くの若者がリモート参詣をされたことは、佛立の未来への一筋の光明を見出した思いです。

さらには、規模は縮小されたものの、各支庁・布教区にて高祖ご降誕八百年慶讚法要が奉修され、いよいよ結実に向けての機運も高まつてまいりました。

また、昨年の十月より新井宗務総長による新内局が発足し、慶讚ご奉公の結実に向けて新たな方針・方策も展開されてまいります。

高祖ご降誕八百年ご正当の年を迎え、宗内教講一同がなお一層口唱信行に励み、高祖の御弟子旦那としてどんな困難にも打ち勝つ決意心で、現証弘通に精進されんことを期待して年頭のことばといたします。

「吾祖師の 慈悲のをしへを まもれ  
令和四年元旦 本門佛立宗第二十六世講有日良  
「これは妙也 不思議

新年のごあいさつ 住職 長谷川 清済

ですが、開導聖人は御教歌に  
「なき事を　いふないひ損　ふたとて　只物くれる　よの  
中でなし」

とお示し下されています。

「もう私にはできない」「投げ出したい」と泣き言を言つて

し並べてご利益を得られました。

これも「今私たちができること」を考え、実行して得た素晴らしい成果と申せます。

この姿勢を見習つて、日本のご信者も信心改良・信心増進を果たしていきましょう。

制限を設け、三密を避けながら、出来る限りの対策を施し、また都度模索しながら執行、寒参詣・夏期参詣も、無理のないお参詣を呼びかけ、その上でご信者一人ひとりが状況に合わせてお寺に参らねる、という、今までのご奉公の歴史の中では考えられなかつたご奉公の毎日であつたように思います。

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

一昨年に引き続き、昨年もまた、新型コロナウイルス蔓延に伴い、御弘通ご奉公のしにくい一年となつてしまいました。

年の半分近くが緊急事態宣言、または蔓延防止措置期間となり、その間は御会式も寺内奉修が中心、参詣者数にもよう、清流寺の御弘通も全く成果が上がらず、昨年の教化成就数は二十六戸と、過去最低を大きく更新する、まさに惨憺たる結果に終わりました。また、昨年の總祈願にもありましたように、教区再編成により、残念ながらいくつかの教区が合併・統合し、新たなスタートを切ることになりました。

「仕方ない」と割り切るの

甘くない。その中でも前を歩いて、牛の歩みでも一步一步と着実に歩を進める事で御弘通の道、ご利益の道が開かれるのだ、とお折伏くださつておられるのです。

先住日堯上人も生前、常々『できない』ばかりを口にすらるのではなく、『できない』自分で自分には今何が出来るかを考えなさい」と仰せになつておられました。

本年度の総祈願をご披露させていただきます。

① 本年度教化誓願達成・学徒一名増加

例年掲げている御祈願ですが、昨年が非常に低調でしたので、本年は教務もご信者各位も、殊更に気を入れて教化折伏のご奉公にあたらせていただきましょう。

そして今現在、相次ぐご遷化やご勇退により、清流寺でござ

後ろ向きな考えばかりでは、お寺や各教区各部の御弘通隆昌発展・法城護持はナリ得ません。こんな時こそシッカリと前を見て力強く歩いていく必要があります。暗い話題ばかりの中にも明るい材料はあります。

昨年、当山唯一の海外教育である豪州・クイーンズランドにおいて、自覚ましく御弘

奉公する教務師が手薄となり、日々の御奉公にも支障が出てきてしまいかねない状態です。開導聖人時代、教務とご信者の中間に「学徒」と呼ばれる存在があり、いわば教務の見習いのような形でご奉公に励まれた方が沢山おられました。清流寺でも「その学徒を養成し、次世代に繋げていくこと」が急務となっています。

令和四年度總祈願  
本年度教化誓願達成・學徒一名增加  
日堯上人五ヶ年報恩御奉公寺内境内修復御有志奉納成就  
人と未来を繋げる御奉公推進之御願  
積極的御法門聽聞・励まし声かけ助行・御利益感得口唱実践

不成就に終わったこと、清流寺本堂の御宝前に深くお懺悔をさせていただきました。

発足するまでに至りました。  
清流寺から遙か遠くの地、  
問題が起きてもすぐに教務が  
駆け付けることが叶わない、  
そんな状況の中でも、豪州の

これも法灯相続の一環といえ  
るでしょう。

(2) 日堯上人五ヶ年報恩御奉納  
寺内・境内修復御有志奉納  
成就

お陰をもちまして、昨年、  
日堯上人の一周忌法要を無事  
に奉修させていただきまし  
た。本年は祥月御命日である  
十月二十日(木)に三回忌

法要を、本寺・乗泉寺御高  
職の永江日盡上人をお迎えし  
て奉修させていただきます。  
この法要に向けての報恩ご奉  
公もさることながら、三回忌  
から七回忌までの五年間をか  
けて、寺内・境内の修復を主  
軸としてご奉公させていただ  
きたいと思います。

現在の清流寺が建立されて  
から約四十五年あまり、年月  
による傷みが随所に見られ、  
お寺の中でも雨漏りが生じて  
いる個所もあります。

また、近隣住民からのご指摘  
もあり、お寺を囲むブロック  
塀も、来るべき災害に備え、  
今から補修を施していかねば  
なりません。

羽村別院では、食堂として  
利用している建物の屋根が沈  
み、早急に補修が必要な状況  
となっています。

こういった、寺内境内の修復  
を、五年間かけて手直しを施  
し、これから先も末永くお寺  
を護持していくようにするの  
が狙いです。

「法城護持」は所属する教講・  
信者の務めです。皆さまから  
も志厚くご有志の志を賜りました  
く存じます。詳しくは趣意書  
をご一読ください。

(3) 人と未来を繋げる御奉公推進  
③ 人と未来を繋げる御奉公推進

奉公ですが、近年はこの法灯  
相続がうまくいっていないた  
めに、退転などの残念な結果  
を迎えてしまうご家庭も少な  
くありません。

お題目こそ、現当一世にわ  
たるご利益感得の基であるの  
は、それが絶たれてしまうこ  
とは、家族全員の未来世のご  
利益の道が途絶えてしまうこ  
とになります。

「人と人」「人と未来」を繋げ  
るご奉公、人間関係が希薄化  
している今だからこそ、求  
められているものだと想いま  
す。信心の有難さ・尊さを  
語り伝え、絆を深め、相扶け  
合う、これが佛立宗の掲げる  
菩薩行の神髄です。

昨年より、清流寺もネット  
配信の環境を整備し、皆さま  
に仏様のみ教えをお伝えでき  
るよう努力精進を重ねており  
ます。ぜひこれらを活用しな  
がら、人と未来を繋げ、いつ  
までもお題目の上がる家庭を  
作り上げていきましょう。

④ 積極的御法門聴聞・励ま  
し声かけ助行・御利益感得  
口唱実践

昔より、信心の基本は「口唱」と  
「聞法」といわれます。こ  
の二つがなければ罪障消滅も  
ご利益感得も叶いません。豪  
州のご信者が実践された「ご  
利益感得運動」の中身も、こ  
の口唱・聞法が中心でした。  
加えて「助行」は、異体同心  
の輪を作り上げるために最も  
重要なご奉公といつても過言

ではありませんが、新変異株再感染の  
おそれがあることのこと、早急  
に効果的な対策がとられるこ  
とを切望します。

ではなく、たった一言の声掛け  
であっても、それが信心増  
進・信心改良のきっかけにな  
り得るのですし、教区部内  
隅々まで気に掛けることでの  
きるご奉公こそ、本来の御弘  
通御奉公なのだと思います。

今までこの点がご奉公不足  
だつたという反省を踏まえ、  
教務もご信者も、共どもに声  
をかけ、お助行がさせていた  
だける環境づくりを作り上げ  
てまいりましょう。

教務もご信者も、共どもに声

(一) 当山の総祈願は、本年の御  
奉公の目標となるべきもの  
で、教講一体、異体同心で尚  
一層の精進をさせて頂きま  
しょう。

(二) 高祖日蓮大士ご降誕八〇〇  
年本山大法要は、一年延期と  
なり、令和五年の本山大法要  
の日程に合わせて執行される  
ことになりました。

(四) 「財の功德のご奉公」！

宗門三大奉納金の中でも、  
最も大事な「本山初灯明料」  
について、志厚くご家族全員で  
の随喜奉納につとめましょう。

をお願い申し上げます。

お陰をもちまして、昨年、  
日堯上人の一周忌法要を無事  
に奉修させていただきまし  
た。本年は祥月御命日である  
十月二十日(木)に三回忌

法要を、本寺・乗泉寺御高  
職の永江日盡上人をお迎えし  
て奉修させていただきます。  
この法要に向けての報恩ご奉  
公もさることながら、三回忌  
から七回忌までの五年間をか  
けて、寺内・境内の修復を主  
軸としてご奉公させていただ  
きたいと思います。

現在の清流寺が建立されて  
から約四十五年あまり、年月  
による傷みが随所に見られ、  
お寺の中でも雨漏りが生じて  
いる個所もあります。

また、近隣住民からのご指摘  
もあり、お寺を囲むブロック  
塀も、来るべき災害に備え、  
今から補修を施していかねば  
なりません。

羽村別院では、食堂として  
利用している建物の屋根が沈  
み、早急に補修が必要な状況  
となっています。

こういった、寺内境内の修復  
を、五年間かけて手直しを施  
し、これから先も末永くお寺  
を護持していくようにするの  
が狙いです。

「法城護持」は所属する教講・  
信者の務めです。皆さまから  
も志厚くご有志の志を賜りました  
く存じます。詳しくは趣意書  
をご一読ください。

(3) 人と未来を繋げる御奉公推進  
③ 人と未来を繋げる御奉公推進

ご既承の通り、当山のご奉  
公体制の基本は、教区、部單  
位です。

特に、お役中さん、教区長、  
部長さんのご奉公に随喜して  
おりますが、ご信者方の法燈  
相続、次世代信徒の育成、参  
詣者増加に、尚一層のご尽力  
をお願い申し上げます。

お題目こそ、現当一世にわ  
たるご利益感得の基であるの  
は、それが絶たれてしまうこ  
とは、家族全員の未来世のご  
利益の道が途絶えてしまうこ  
とになります。

「人と人」「人と未来」を繋げ  
るご奉公、人間関係が希薄化  
している今だからこそ、求  
められているものだと想いま  
す。信心の有難さ・尊さを  
語り伝え、絆を深め、相扶け  
合う、これが佛立宗の掲げる  
菩薩行の神髄です。

昨年より、清流寺もネット  
配信の環境を整備し、皆さま  
に仏様のみ教えをお伝えでき  
るよう努力精進を重ねており  
ます。ぜひこれらを活用しな  
がら、人と未来を繋げ、いつ  
までもお題目の上がる家庭を  
作り上げていきましょう。

④ 積極的御法門聴聞・励ま  
し声かけ助行・御利益感得  
口唱実践

昔より、信心の基本は「口唱」と  
「聞法」といわれます。こ  
の二つがなければ罪障消滅も  
ご利益感得も叶いません。豪  
州のご信者が実践された「ご  
利益感得運動」の中身も、こ  
の口唱・聞法が中心でした。  
加えて「助行」は、異体同心  
の輪を作り上げるために最も  
重要なご奉公といつても過言

ではありませんが、新変異株再感染の  
おそれがあることのこと、早急  
に効果的な対策がとられるこ  
とを切望します。

(一) 当山の総祈願は、本年の御  
奉公の目標となるべきもの  
で、教講一体、異体同心で尚  
一層の精進をさせて頂きま  
しょう。

(二) 高祖日蓮大士ご降誕八〇〇  
年本山大法要は、一年延期と  
なり、令和五年の本山大法要  
の日程に合わせて執行される  
ことになりました。

(四) 「財の功德のご奉公」！

宗門三大奉納金の中でも、  
最も大事な「本山初灯明料」  
について、志厚くご家族全員で  
の随喜奉納につとめましょう。

をお願い申し上げます。

お陰をもちまして、昨年、  
日堯上人の一周忌法要を無事  
に奉修させていただきまし  
た。本年は祥月御命日である  
十月二十日(木)に三回忌

法要を、本寺・乗泉寺御高  
職の永江日盡上人をお迎えし  
て奉修させていただきます。  
この法要に向けての報恩ご奉  
公もさることながら、三回忌  
から七回忌までの五年間をか  
けて、寺内・境内の修復を主  
軸としてご奉公させていただ  
きたいと思います。

現在の清流寺が建立されて  
から約四十五年あまり、年月  
による傷みが随所に見られ、  
お寺の中でも雨漏りが生じて  
いる個所もあります。

また、近隣住民からのご指摘  
もあり、お寺を囲むブロック  
塀も、来るべき災害に備え、  
今から補修を施していかねば  
なりません。

羽村別院では、食堂として  
利用している建物の屋根が沈  
み、早急に補修が必要な状況  
となっています。

こういった、寺内境内の修復  
を、五年間かけて手直しを施  
し、これから先も末永くお寺  
を護持していくようにするの  
が狙いです。

「法城護持」は所属する教講・  
信者の務めです。皆さまから  
も志厚くご有志の志を賜りました  
く存じます。詳しくは趣意書  
をご一読ください。

(3) 人と未来を繋げる御奉公推進  
③ 人と未来を繋げる御奉公推進

ご既承の通り、当山のご奉  
公体制の基本は、教区、部單  
位です。

特に、お役中さん、教区長、  
部長さんのご奉公に随喜して  
おりますが、ご信者方の法燈  
相続、次世代信徒の育成、参  
詣者増加に、尚一層のご尽力  
をお願い申し上げます。

お題目こそ、現当一世にわ  
たるご利益感得の基であるの  
は、それが絶たれてしまうこ  
とは、家族全員の未来世のご  
利益の道が途絶えてしまうこ  
とになります。

「人と人」「人と未来」を繋げ  
るご奉公、人間関係が希薄化  
している今だからこそ、求  
められているものだと想いま  
す。信心の有難さ・尊さを  
語り伝え、絆を深め、相扶け  
合う、これが佛立宗の掲げる  
菩薩行の神髄です。

昨年より、清流寺もネット  
配信の環境を整備し、皆さま  
に仏様のみ教えをお伝えでき  
るよう努力精進を重ねており  
ます。ぜひこれらを活用しな  
がら、人と未来を繋げ、いつ  
までもお題目の上がる家庭を  
作り上げていきましょう。

④ 積極的御法門聴聞・励ま  
し声かけ助行・御利益感得  
口唱実践

昔より、信心の基本は「口唱」と  
「聞法」といわれます。こ  
の二つがなければ罪障消滅も  
ご利益感得も叶いません。豪  
州のご信者が実践された「ご  
利益感得運動」の中身も、こ  
の口唱・聞法が中心でした。  
加えて「助行」は、異体同心  
の輪を作り上げるために最も  
重要なご奉公といつても過言

ではありませんが、新変異株再感染の  
おそれがあることのこと、早急  
に効果的な対策がとられるこ  
とを切望します。

(一) 当山の総祈願は、本年の御  
奉公の目標となるべきもの  
で、教講一体、異体同心で尚  
一層の精進をさせて頂きま  
しょう。

(二) 高祖日蓮大士ご降誕八〇〇  
年本山大法要は、一年延期と  
なり、令和五年の本山大法要  
の日程に合わせて執行される  
ことになりました。

(四) 「財の功德のご奉公」！

宗門三大奉納金の中でも、  
最も大事な「本山初灯明料」  
について、志厚くご家族全員で  
の随喜奉納につとめましょう。

をお願い申し上げます。

お陰をもちまして、昨年、  
日堯上人の一周忌法要を無事  
に奉修させていただきまし  
た。本年は祥月御命日である  
十月二十日(木)に三回忌

法要を、本寺・乗泉寺御高  
職の永江日盡上人をお迎えし  
て奉修させていただきます。  
この法要に向けての報恩ご奉  
公もさることながら、三回忌  
から七回忌までの五年間をか  
けて、寺内・境内の修復を主  
軸としてご奉公させていただ  
きたいと思います。

現在の清流寺が建立されて  
から約四十五年あまり、年月  
による傷みが随所に見られ、  
お寺の中でも雨漏りが生じて  
いる個所もあります。

また、近隣住民からのご指摘  
もあり、お寺を囲むブロック  
塀も、来るべき災害に備え、  
今から補修を施していかねば  
なりません。

羽村別院では、食堂として  
利用している建物の屋根が沈  
み、早急に補修が必要な状況  
となっています。

こういった、寺内境内の修復  
を、五年間かけて手直しを施  
し、これから先も末永くお寺  
を護持していくようにするの  
が狙いです。

「法城護持」は所属する教講・  
信者の務めです。皆さまから  
も志厚くご有志の志を賜りました  
く存じます。詳しくは趣意書  
をご一読ください。

(3) 人と未来を繋げる御奉公推進  
③ 人と未来を繋げる御奉公推進

ご既承の通り、当山のご奉  
公体制の基本は、教区、部單  
位です。